

提出締切：2009年4月20日(月)

2008年度 研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部：教授 氏名： 篠田武司
研究テーマ	4 大学連携国際共同研究と国際学術誌発刊の複合的国際発信

### I. 「成果発信」の目的・意義の概要

今回の国際的研究成果発信の目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。

(1) 目的と狙い： このプログラムは「グローバル化と公共性」プロジェクトと連携して、国際学術共同研究・学術会議の開催をめざすものである。特に、このプログラムは定例的な国際共同研究・学術会議をめざすものであり、その積み重ねの中でグローバル化をもたらす国家の変容、地域主義の台頭とその意義、またグローバル化をもたらす社会的変動を、特にアジアを中心に読み解いていくものである。

(2) 意義、必要性： これまでヨーロッパ地域や、南北アメリカの経済・地域圏における上記の研究課題・目的はそれなりに深まっている。しかし、アジアないし東アジアにおけるそれらの研究は、まだまだ十分ではない。本プログラムは、それをめざしたものである。しかも、主要なアジアの国の研究者の交流を通して研究を持続的に深めていくという取り組みはそれほど多くない。さらに、アジア圏以外の研究者が、こうした課題についてどのように見ているかという視点を本プログラムは重視したのであるが、それは成功的でありそれぞれの国の研究者に裨益すること大であった。なによりも、本プログラムは持続した研究者の交流を目指している。多くの国際学術共同研究・学術会議が1回限り、あるいは短期に終わることに危惧をもち、本プログラムは持続した国際交流の中で各国の研究者が互いの認識を深め合うことが、研究成果をあげるために必要なことだと認識しており、それをめざしてきた。こうした持続した共同研究は、アジアの国が相互に理解し合うその一端を担うものであり、その意義は大きいと考える。

(3) 本プログラムは、共同研究の成果をまた広く発信することを目指しており、人文研の欧文紀要などに積極的に掲載していくことを目指し、その発行に寄与したいと考える。

### II. 「成果発信」の成果と今後の展開計画の概要

今回の国際的研究成果発信で得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。

#### (1) 4大学学術研究プロジェクト・学術会議

すでに、3大学での学術交流が実現した。来年度は韓国中央大学での開催が決定しており、これで1サイクルが終わる。この間の交流の中で4大学間の研究機関・研究者間の強い絆が築かれてきた。また4大学以外にもこれらシンポに参加した他の国の研究者との交流も深まっている。学術会議は引き続き2サイクル目をめざすことになる。

#### (2) 国際発信について

こうした国際学術交流を充実・持続させていく中で、近い将来それを基礎にした出版物の公刊を4大学で検討しており、そのための努力を行いたい。

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。